

ドラム缶工業会の 本年の活動方針について

さる1月22日、ドラム缶工業会の新年懇親会において、工業会を代表して挨拶にたった安藤理事長から、本年のドラム缶工業会の活動方針の要旨が次の通り発表されました。

.....◇.....◇.....◇.....

昨年のドラム缶生産量は、需要業界の業績低迷から特に年央から後半にかけて急減し、いよいよドラム缶業界にも深刻な不況の影がさしてきた。こうした状況が本年も続くことは必至だが、希望を込めて今年の秋口からの回復を期待したい。

一方昨年、フローレンスでの国際会議を軸に当業界の国際化が急進展した。この流れは本年もますます加速されよう。

このような背景の下で、ドラム缶工業会としてはこの1年間次の点に重点を置いて活動を進めていきたい。

第1に、業界が一致団結してこの不況乗り切りに協力し合っていくこと。

景気の低迷に押し潰されてただ身を縮めてはますます景気を悪くする。明るい希望と強い信念を失わず、我々の努力で不況を克服するとの気概をもって難局にあたりたい。

そして、この不況の間に、不況に耐え得る思い切った体質改善を行い、将来へ向けての体力の強化に努めよう。そのためにみんなで知恵と力を出し合おう。

しかしながら一方では、こういったときであるからこそ、品質管理・環境管理には細心の注意を払い、品質問題を起こしたり、社会的な指弾を浴びたりすることのないよう、万全の体制で臨んでいきたい。

第2に、ドラム缶工業会としての存在感の向上に努めていくこと。



そのために、工業会として積極的な役割を果たしていき、社会及びドラム関係者への貢献を通して存在感のアピールとイメージアップに努力していきたい。また、需要業界、関連業界とも内容の濃い連携関係を作り上げ、貢献の実をあげていく。

第3に、国際化の進展に対応し、国際的課題を誠実・確実に実行していくこと。

今年は正式にICDM（国際ドラム缶製造業者連盟）が発足する。わが工業会もその運営に積極的に参画していくとともに、世界的共通課題について我々のはたすべき役割を誠実に実行し、課題解決に向けてその一翼を担っていきたい。また、AOSD（アジア・オセアニア地区ドラム缶工業会）についても、その組織化・活性化と、来年に予定されているシンガポール会議に向けての準備に強いリーダーシップを発揮していかなければならない。

以上の3点に重点を置いて活動を展開していくが、会員の皆さんにおいても工業会の活動に積極的に参画し、行動する生き生きとした工業会目指して頑張っていっていただきたい。

.....◇.....◇.....◇.....

当日は、ドラム缶工業会の正会員、賛助会員のメンバーに加えて、関係諸団体、マスコミの方々など、合計100余名が参集、和気あいあいとして新年の挨拶と懇親を深めました。

NOTE

物流問題の背景

——ドラム缶の輸送事情について

(その1)

クローズアップされている物流問題

ドラム缶業界に限らず、どの業界でも近年物流問題は合理化の対象として大きくクローズアップされています。年々ひどくなる交通渋滞、長時間勤務を嫌う若年ドライバーなど、構造的な問題として対応を迫られているのは周知のとおりです。

私どもドラム缶業界は、その商品特性から上記のような影響を一層受けやすい業界と言えます。「お客様のお手元に良い製品を決められた時間に確実にお届けする」をモットーにこれからも邁進したいと頑張っていますが、以下私どもの業界の現状をお話ししたいと思います。

人力で扱えるという便利さゆえに

200ℓドラムを主体として話を進めますが、1本約24kgのこの容器は、空缶時人間が素手でハンドリング出来る最大容量の鋼製容器として全世界に広く愛用されています。しかしながら近年この人力でハンドリング出来る愛すべき容器が、逆に人力で扱えるがゆえに物流関係者(運送会社及び運転手)から嫌われてきつつあります。

私どもの協力企業であるドラム缶輸送会社は、不足ぎみのトラック運転手の募集を定期的に行っていますが、タンクローリーの運転手なら1ヶ月募集すれば10人も応募があるのに、ドラム缶の運転手はひとりあるかどうかわかりません。ドラム缶輸送では必須となる「手積・手卸」作業が嫌われるからだと考えられます。工場出荷時のトラック積込みは、プラットホームやコンベヤを使うことにより極力労力を軽減しています。しかしお客様での荷卸しは手卸しが原則であり、またその条件が千差万別で運転手の負担増となっているのが実情です。

小ロットでは1本1,000円にもなる運賃

一方目を転じて輸送ロットを見てみます。

昨秋の業界での調査によりますと、積載ロットが小さく空屯率の高い輸送がかなりの件数にのびます。ジャストインタイム納入は時代の流れであると認識してはおりますが、以下のような実状にあることもご理解していただきたいのです。

トラックが1日1回転しか出来ない場合、距離にもよりますが通常1車約4~5万円を要します。仮に50本ロットですと運賃が1本あたり800~1,000円にもなり、この負担はドラムメーカーに重くのしかかってきています。大量納入も小口納入も同一運賃という前提を見直す時期に来ているのではと考えております。

「時間指定」に猶予を

次に大きな問題点に「時間指定」があります。

大半のお客様は「朝一番」の納入を指示されます。私どもとしては保有トラックの台数に限りがありますので、これに全数応えるのが難しい日が出てきており、その都度お客様にご苦勞をかけながら調整させていただいております。時間に余裕がおありの場合には「午前中」とか「午後中」などの納入もお考えいただきたいと思います。

☆ ☆ ☆

この他にも「荷卸し待ち」「荷卸し方法」等々、輸送合理化についての研究課題は多々ありますが、次号ではこれらを総括して需要家の皆様方のご理解とご協力をお願いしたいと考えております。



6年振りにドラム缶の 生産・出荷減少

平成4年のドラム缶生産・出荷は、6年ぶりに前年実績を下回った。

生産は前年比3.6%減の35万5千454トン、出荷が同比3.5%減の35万5千774トンで、昭和61年以来の前年比マイナスとなったが、昨年後半からの景気停滞のための需要停滞による需要減少がその要因と思われる。

この出荷を、缶種別・用途別にみると表-1に示す通りである。

このうち、200ℓ缶の出荷本数は、前年比3.7%減の1,241万2千本で、うち160万9千本(13.0%)が間接輸出に向けられており、前年を0.1%上回った。

また、主として危険物用に使用される多重巻き缶の構成比は46.1%で、同比1.7%増加している。

また、ペール缶は、同比1.1%減の2,678万6千本であったが、缶種別の構成比は、ラグペール71.2%、バンドペール17.4%、タイトペールが11.4%となっている。



近ごろはドラム缶が一般の人たちの目に触れる機会が少なくなってきた。
だが、ドラム缶そのものに対するイメージは、一般の人々には牢固とした抜きがたいものがあるようだ。いわく、茶色に錆びて、油

とベンキに汚れて、どこかがひしゃげたまま人目につかぬところに放置されて、中には何やら得体の知れないどうつとしたものが残っている……。
実際のドラム缶は、出荷のときには缶内の清浄度はチリひとつ無

いように最高に管理され、外側もカフフルに塗装され、誠にきれいで芸術的とさえいえるもの。ごく一部の、不当な扱いを受けているドラム缶によつて、実体とかけ離れた誤ったイメージが形作られて

にとつても誠に不幸なことといわざるを得ない。
有用で、地球に優しい容器としてのドラム缶の優れたイメージを、倦まずたゆまず努力して定着させたいものである。

DATA FILE

表-1 平成4年(1~12月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

用途 缶種		用途					合計	前年同期比
		石油	化学	塗料	食料品	その他		
200	Q 缶	2,093	9,134	744	192	249	12,412	96.3%
ペ	ー ル	13,701	10,475	1,720		890	26,786	98.9
1	Q 缶	15	163	3		微	181	90.9
50	Q 缶	2	234	微		1	237	86.9
20	Q 缶	20	400				420	81.1
ア	ス 缶 型	5	22				27	164.6
その他容量缶		5	880	微		9	894	99.4
垂 鉄 板 鉛 缶	200 Q		202	6	2	13	223	107.3
	その他		318	1		1	320	88.2
	小計		520	7	2	14	543	95.1
ス レ ス 缶	200 Q		11	16			27	125.4
	その他		8			微	8	88.4
	小計		19	16		微	35	113.7
合 計		15,841	21,847	2,490	194	1,163	41,535	97.8
構 成 比		38.1	52.6	6.0	0.5	2.8	100	—



東邦シートフレーム株式会社

TOHOドラムは、1989年から製造を開始し、その数はすでに2,000万本を越え、横にして並べると日本全国を網羅する鉄道網を埋めつくします。

業界におけるTOHOの技術力の高さを示すものの一つに、特殊容器があります。高気密性真空容器「キミツ」は、これまでのファインケミカルのほかに、半導体を扱うことも可能にしました。さらに、温度管理機能をもった「サーモベッセル」は、冷凍食品や乾燥野菜分野などを扱う食品全般で関心を集めています。

TOHOは、2年に一度開催される、世界四大パッケージング展の一つ、「東京パック」にも出展を続け、時代のさまざまな要求に対して、いつも確かな最新の技術でお応えできるよう努力しております。



株式会社長尾製缶所

当社は、大正7年、和歌山県有田市で操業を開始し、近隣に立地する石油各社のご愛顧を得て、発展の基盤を固めました。

その後、常に先進技術の導入に努めながら、需要の変化やユーザーニーズの多様化に即応して業容の拡大をはかり、現在では、和歌山県・千葉県に東西の拠点を置き、中小型ドラム、ペール缶をはじめ、20Q・18Q・4Q角缶、1Q丸缶や各種特殊仕様缶を生産する総合容器メーカーとして、石油・化学・食品等の分野で広くご愛用いただいております。

今年には当社にとって、創業75周年・会社設立30周年にあたる節目の年。これまでのご支援に深く感謝しながら、容器の使命である保護・貯蔵・運搬を確実に保証できる高品質の製品を、真心のこもったサービスで提供し、もって、皆様方の信頼と期待にお応えしたいと、決意を新たにしております。



日鐵ドラム株式会社

当社は、我が国で最初のドラム缶メーカーですが、昭和7年の創業当時からドラム缶の製造販売を通して社会に貢献することを基本とし、製造技術の進歩と業界の健全な発展を目指してひたすら努力を続けてきました。

今、企業理念として「社会を通じて社会に貢献を」「顧客に満足を」「人を大切に」「適正利潤、適正配分」「発展拡大」の5項目を掲げつつ、第1次・第2次中期総合計画を精力的に推進していくことにより、技術面でも収益面でもまた経営多角化の面でも、さらにダイナミックに変身を遂げたいこうと、「ザ・モア!」を合言葉に全社一丸となって取り組んでいます。

歴史は古いが気持ちは若々しく、ドラム缶からあらゆる容器へと発展し、未来に向かって挑戦を続ける元気印の会社です。

TOHOドラムは、1989年から製造を開始し、その数はすでに2,000万本を越え、横にして並べると日本全国を網羅する鉄道網を埋めつくします。

業界におけるTOHOの技術力の高さを示すものの一つに、特殊容器があります。高気密性真空容器「キミツ」は、これまでのファインケミカルのほかに、半導体を扱うことも可能にしました。さらに、温度管理機能をもった「サーモベッセル」は、冷凍食品や乾燥野菜分野などを扱う食品全般で関心を集めています。

TOHOは、2年に一度開催される、世界四大パッケージング展の一つ、「東京パック」にも出展を続け、時代のさまざまな要求に対して、いつも確かな最新の技術でお応えできるよう努力しております。

当社は、大正7年、和歌山県有田市で操業を開始し、近隣に立地する石油各社のご愛顧を得て、発展の基盤を固めました。

その後、常に先進技術の導入に努めながら、需要の変化やユーザーニーズの多様化に即応して業容の拡大をはかり、現在では、和歌山県・千葉県に東西の拠点を置き、中小型ドラム、ペール缶をはじめ、20Q・18Q・4Q角缶、1Q丸缶や各種特殊仕様缶を生産する総合容器メーカーとして、石油・化学・食品等の分野で広くご愛用いただいております。

今年には当社にとって、創業75周年・会社設立30周年にあたる節目の年。これまでのご支援に深く感謝しながら、容器の使命である保護・貯蔵・運搬を確実に保証できる高品質の製品を、真心のこもったサービスで提供し、もって、皆様方の信頼と期待にお応えしたいと、決意を新たにしております。

当社は、我が国で最初のドラム缶メーカーですが、昭和7年の創業当時からドラム缶の製造販売を通して社会に貢献することを基本とし、製造技術の進歩と業界の健全な発展を目指してひたすら努力を続けてきました。

今、企業理念として「社会を通じて社会に貢献を」「顧客に満足を」「人を大切に」「適正利潤、適正配分」「発展拡大」の5項目を掲げつつ、第1次・第2次中期総合計画を精力的に推進していくことにより、技術面でも収益面でもまた経営多角化の面でも、さらにダイナミックに変身を遂げたいこうと、「ザ・モア!」を合言葉に全社一丸となって取り組んでいます。

歴史は古いが気持ちは若々しく、ドラム缶からあらゆる容器へと発展し、未来に向かって挑戦を続ける元気印の会社です。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

A DK 秋田ドラム工業株式会社

秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

O.S.K. 株式会社大阪製罐所

大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601

川鉄コンテナ株式会社

大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

協和容器株式会社

新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

鋼管ドラム株式会社

東京都中央区銀座9-11-11 ☎ 03-3574-0711

斎藤ドラム缶工業株式会社

横浜市鶴見区生妻3-15-14 ☎ 045-521-3881

山陽ドラム缶工業株式会社

岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

新邦工業株式会社

東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

大同鉄器株式会社

尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

株式会社東京ドラム罐製作所

東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511

東邦シートフレーム株式会社

東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

株式会社長尾製缶所

和歌山県有田市吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

株式会社新潟容器製作所

新潟市新崎386-7 ☎ 025-259-3201

日鐵ドラム株式会社

東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251

株式会社前田製作所

東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

森島金属工業株式会社

千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

株式会社山本工作所

北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

株式会社ユニコン

大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.4 (平成5年3月25日発行)

発行人 ドラム缶工業会

専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。